



歳

美多々多
山川
細也
和

左琴



歳旦

東柳憲

葵志

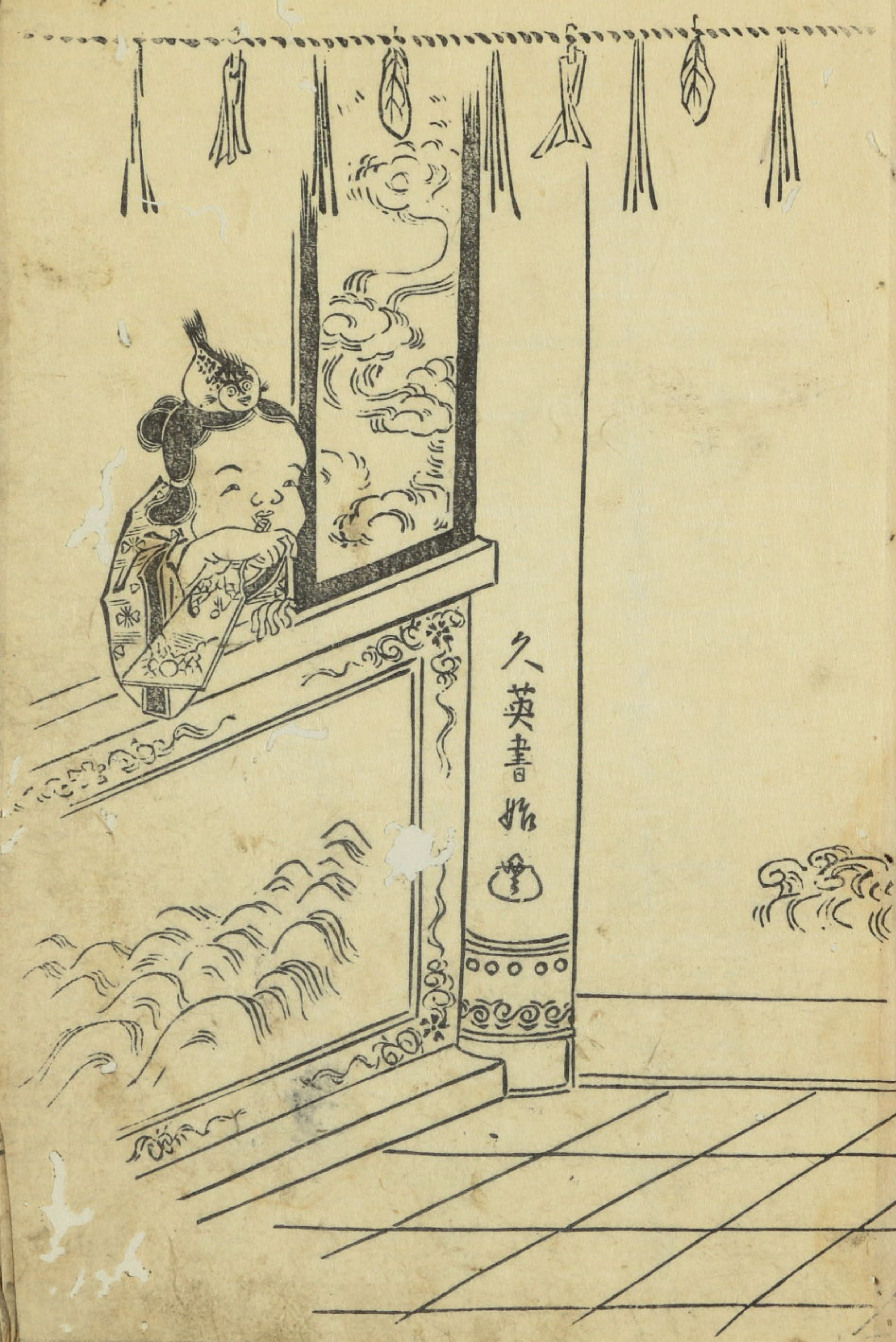
小川

東漁

松

葵水

友



久英書



歳旦

一萬言

光りりりり 風も 東曉

に 鶴うら玉乃 氷

うら 津の 梢 葵志

葉の 如 毒う 魚

氷の と 儂ふ 細流

百千の とりり 母

歳旦

あつゝの 跡 跡 玉の 氷玉堂
春と定

み あり ちの ちの 如 眺 隨

初 不 二 見 ち や さん

そ 竹 乃 乃 葵 志

も 如 乃 松

樽 乃 乃 乃 星 鳥

川 流 乃 乃 乃 乃 天



和光

東遊舎

素卿

と鈴のめく

茶
花
夾

東林



礼帳

柳糸軒

多迫人の

莫破

筆は

和

日暮石遊学

馬

歳旦

と新向ふ多良の氷や和奇の辰 東和齋 寛里

築山の智れ口の備る 英志

君う代といふふ 千丈楼 梧井

し 燕志

廻文

さあの一 萬壽亭 吟國

屢聽の香り画揃り 英志

あ 梅林舎 連鳥

歩 英志

君の代乃光り 雪古道 梅賀

並 英志

松の春身 英志

古江の水 英志



歳旦

巳ん不

さは枝とあふや梅乃より川曆 石竜
 身乃志契さく信より信る小判が
 耳よりる鼻より梅ありと物のみ不二 連志
 とくは豆五つあふ乃あつ終るを
 虫初や硯乃よりとも 深みより 哲志
 掛より攀るよりついで一の山
 蓮葉もあふ前よりいさよ月 蛙柳
 床の間に十あ盤もあり身忘

氷の為り初る時 旦うふ 丹志
 赤帳片帆と一のりや梅の上
 蓮草の山形信信 初日終 船柳
 宗もまもつる餅の柳が
 いはむいら紫のふや新律出 田柳
 能よりとまきい姑しや身乃ら水
 多水やまいつとねふくどゆ 秋戸 熨斜
 り身や松山もあり萩九を
 世のふもまど丸う水や初日の 斜月
 人もらぬ車よりとの定

白丁
早月
山
美



今ひく
花の
穿花
初
烈志

子興画

咲いづる花の初日乃ありとが
 掃除也一冠甲斐や身乃ふ
 試る美子みふくや玉姑ら
 さん巻一盤のこころは
 明の戸子初日の掃や
 梅り魚此紫由やと一の峠
 詠多の夢も紫よりと
 いふ梅く美此用きや
 初衣和不二
 身乃尾や不二と
 三保の春
 三保の春

蕨門
石莢
子興
吟調
鼠裘

閑くものえハ 要どより日乾 東朝
 香り春の道も忍びり身の掛
 美水り路のきくたや明乃美 湖水
 どのおや鶴乃海老のまがり形
 格別りおしく海や初日のお 高崎 葵花
 格よまよびおたや豆のたと
 羽子のこやほくすめ白ハ天とあり 庶沼 榎馬
 追風り矢標や堂一の隣い
 万々やまつくま水くまはあ
 煉と江や梅ハ今鳥どまぶ咲に





明と知との九よ玉乃と居 五尺

壽ととあり先よりと一市 沾帷

見つとや多も二見のよ川日影 金川

揖とるハ誰ッヤ師を乃其手船 山鳥

恵方より畧のあまより者の手 龍

り身のの初言サッリ帝垂の 尤石

と初や後第乃龍と一のと玉

拾ひ得一年の勝乃多う貝 吐雲

水清一とよ若陽の日姑めぐ 堂

ゆととや滝も多えと身の手

枝振子龍のいぎや明乃梅 米車

竹葉の歩里為るや宮のくれ

蓬菜と先向と知の勇う那 如柙

各屋やこがとちろう孫と一の海

資孫と代とと抱く海老の味噌 呉橋

危一と又角して今ハッ一善ぬ

梅孫壽と記交と一花の歩辺うる 葛藤 暮山

息ハ外内ハ娘の針仕と

能るをといさやのそへん身の錦 暮城

ふいと細いさや并へん年姑善



待ねり
不二

か向ふ

日のし

久英堂

静流舎

葵周



福壽草

元日の

やハ

床の上

麒麟亭

仙志

ふり

歳旦

齋神意

金江子

風光るみかみ

よ水や玉に春

身言

全

糸子こころ

身の言

心の言

いさだよや威徳と見ゆる福壽中 金川 潮舟
 居鴨よきまの如壽くとまの言
 出初やまののびくま和奇乃波 仙屋 文羅
 別荘子子の抱ひりりすく拂
 破戸弓無扇と此と此栖う那 利恭
 町ハミの戸さぬは代や孫おの門
 未廣や路のねまの辰初日乃出 羊齒
 鶯と菜と一春や待らん身の園
 咲揃ふ花の華やま川芝花 廿 艸拈
 春と待つ菜乃華やま川芝花

蓮菜へ

夕夢乃魚

産む

旦

ふ

旭英舎

東羽

久英舎



幾千代の

門乃茶へ

茶の味

東径舎

沙酬



乃右

緇の香結未^タ月のめくや七五三鏡

比羅塔 株谷

年乃^ニ能と能く川波の鼓^ノをか

長命と看^トくくむやとそ^ノの酒

女 春超

市の日や子^ノ孫^ノぞくくも^ノ物も笑

曇^リく^ニ記^シ海代や日本乃^ノ初^メの若

東江

吉例^ハ浪の言^ハ砂^ヤとく^ニの浪

老^トく^ニく^ニは^レは^レけ^レり^ハ初^メ日^ハは^レ空

里南

戸^ノとく^ニく^ニぬ^レ海代乃^ノ去^リく^ニ大^ニ十日

初^メ不^レ二^ノの波^ノく^ニ向^フく^ニや^ハ金^ノ龜^ノ山

鶴車

名^ハ月^ハ北^ノえ^レも^ハ子^ノく^ニ川^ノを^ハ大^ニ海^ノ

武^ノ倉^ノ中^ノの^ハ之^ノ保^クく^ニ濟^クく^ニ松^ノ鏡

元水

師^ヲを^ハが^レ老^ノの^ハく^ニく^ニき^レ録^ノの^ハ音

小^ノ道^ノの^ハ南^ノ枝^ノも^ハあ^レく^ニく^ニ初^メ日^ハが

志紅

方^ノ千^ノ里^ノあ^レも^ハ筈^ノふ^レや^ハ年^ノの^ハ言

曆^ヲあ^レ記^シ海山^ノと^ハま^レ川^ノの^ハ言^ハ北^ノ東

魯頂

初^メも^ハ壽^ノも^ハあ^レむ^レや^ハ除^ク水^ノ乃^ハ神^ノの^ハ肉

酌^ノの^ハ名^ハも^ハあ^レや^ハ記^シま^レり^ハ明^ノ乃^ハ東

青瓢

灯^ノも^ハあ^レ馬^ノも^ハ盤^ノ踏^ルふ^レ身^ノ言^ハが

杉^ノ子^ノ踏^ル梅^ノも^ハ一^ノ萑^ノや^ハ四^ノ方^ノの^ハ春

久英

待^テ来^ルの^ハ人^ノも^ハあ^レ一^ノ拍^ノ建



好く神子自まり

くけりや花の夾

女
ホ子長

石造り又幸也



美子もど
女
葉長

一目の松や

とれ

如

春

石造り又幸也



歳旦

泉川舎

松梅の冬香のつぎつぎ月 冠十

室乃松のこころのこころ 葵志

まはる子まはるやゆらゆらん 葵二

歳旦

八王子連

まはる身や梅さく梅より 林志

まはる梅もはるやとーの肉 林泉

まはるえ能花のかげもあち 林泉

梅は又の花よりあち 林泉

守人松乃笛もあちあちのあ 吳雲

守人ハ十あ梅松も身乃園 如梅

まはるく連もあちあちのあ 如梅

松梅をまはるくあちあちのあ 如梅





忍志抄連中

旦

暮

先花の多揃り〜めや 福壽多々 專志
 世の中乃身の日待や 大之十日
 初之や花也 際乃 袖の 浦 大江
 咲のりど 振小 餅の 花 守
 身乃屋や 幸も 子 あり 後と 池 守
 新宅の 終あ〜と へ 川 日 渡 桺
 焼掃や 新宅乃 徳先 ぶと 川 并
 先〜 笑小 門より 善急 川 并
 餅の 花や 喜も〜 携り 入る 川 并

左

百とせとていふ一七十の表
 我幾と白さうへん身乃按
 初不二や晴とんし初うた
 酒の泉人の戻あり身の市
 子と一人有る世活や福壽
 笑かると表のほりや大海
 似る水とて又秋しき初日
 身の屋も端おしせりり宣の書
 えりや孤と捨るを身乃著
 年乃表と鶴り候とや大二十日
 上下翁
 東志
 加志
 東洲
 東祇

待るよりいづか多初日玉乃と居
 千金のある日入日や大とそり
 け来も不二乃向ししと船の表
 一角ハとて一玉乃と表をく
 せし京一登り踏りま年一境
 身と年の足と中や福寿のま
 身乃とまらるる初うた
 えりや心と一名の筆り
 春と定と捨とて又と一
 来志
 燕山
 湖柳
 志長
 莫珠

去身の垢とくきまはしお身も
撥くくちと拍子体中節事し
雪子伏しと竹と起しと節の末
利千
川身の屋や巻物む古曆
駿西
夢よる世のえ思より初日節
祇翠

和詩

東川

と節の庭の幕くらと冬
あふさるるも冬台法代と
招く古今此後通さし并
竹と起る子此あやおる海

歳旦

聖節無まり竹

よりそ門新曠

春真

山の雪解か

急らばうほきと

歳暮

身の海帆も十ふ乃

曆式

鱗鱗河

東林



宗伯


歳旦

廿三

歳旦

芳押堂

幾千代の本振もあの一松の春
 花山

御庭のより子 踏掛ふ夢
 葵志

汲りの水 扱も霞の八重又もて
 里盃

身著

何くの貞
 花山

揃
 眞

廿三



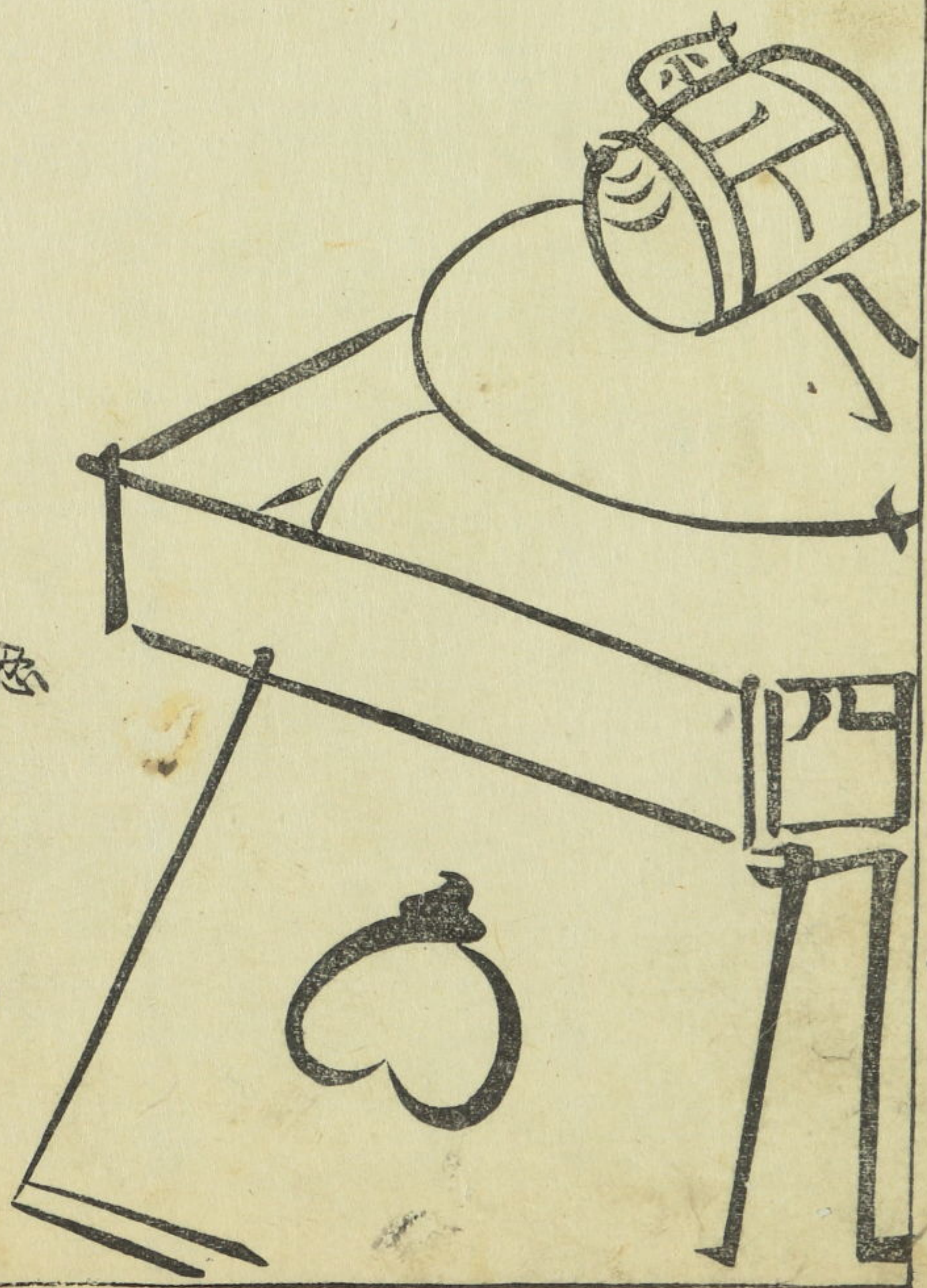
春
 籠
 や
 け
 朝
 の
 雪
 消
 け
 掛
 る
 也
 青
 龍
 臺
 東
 塘

三
 面
 白



東
 義
 亭
 其
 水
 明
 の
 戸
 乃
 可
 り
 一
 巻
 の
 水
 や
 後
 壽
 子

石
 壽
 石



明和八辛卯歲

如蘭自画



廿三

歳旦

初歳多士くまむ 鈴日式 如蘭
 門松や身くまむ 立所 葵樹

まき

雪のまもりけりり 雪解川 如蘭
 雪解や 氷も 谷のくまむ 葵樹

まき

あまのこまのまきまきのまき
 一いねのまきまきのまき

ほんのまきまき山あり 自一重 如蘭

廿三

歳旦

万々や 登々ぬ

年の福々々へ

東穂

春真

解々々 雪の力や

帆々々 舟



燕鳥大車

歳旦

病々々の

病々々の

石垣玉

け下々々

あや々々

身々

餅

酒々々

酒々々



一雲亭

吳山

真真

縁奥洞

石壽

其のりや力々々々
あゝ見ゆー

くくききー雨戸共山
くまもききーりり

柵一も柵一も
道——— 臺所 全



歳旦

あゝ

野呂寺連川連

あ水や岩盤のたを原よりぬ
琳
あゝ吹松風と年暮か

美草とくふとむやうや老の末 三四
 鬼ハ外一智急の矢先やと世豆
 えりや先思る下馬乃 益み紫 芦洲
 草葉ぬあうー 百うと未とるう
 一乃ー 松の林乃 卯日う那 景南
 怪臭の白ひくもさー 身の市
 経ー先眼の悦ひや 福壽中 馬夫
 掛とや筆一ー戻る際水の陸
 拍子融と川 高乃 明自が 巴列

海とや身はあふぬ 火とあふ
 と火よそと香もーあふとよ 抽福壽 鯉洲
 心皆爽もー 碓もやーの市
 一帰もー 千里在景ー 福壽中 一誓
 床子白ふ床一校やとーの言
 切りととに昔の備やかくもあ 其雲
 ひつみあき身は備やうとみ餅
 初語や眼も 福壽中 早子屋藤 如栞
 未身のうととるえよ 梅乃益



上

居り

帆路亭

東浦

酒

や

久英



未度

扇
茶

明
妙

御守亭
松吟

未度

琴

松吹門通ひ事
まゝの一曲

春多川や梅さる

吉日菴

蕨二

まゝの川

碁

あまの目とけ
まゝの石

えりや

寄松庵

東巴

まゝの身

書

水のまきとて入る
まゝの書

風乃解水

東杏亭

秀川

まゝの川

画

まゝ根の白き
まゝの画

不二白く粉

東峯舎

蕨

まゝの川

先

歳旦

以城子

忠連

昇月堂

海

葵流

色

葵志

心

佇進あり

凡流あり

柳

長柏

春真

この流乃古流付

葵流

春能雨

心能身り

岸や毒乃心

祇翠

雪解や

水車

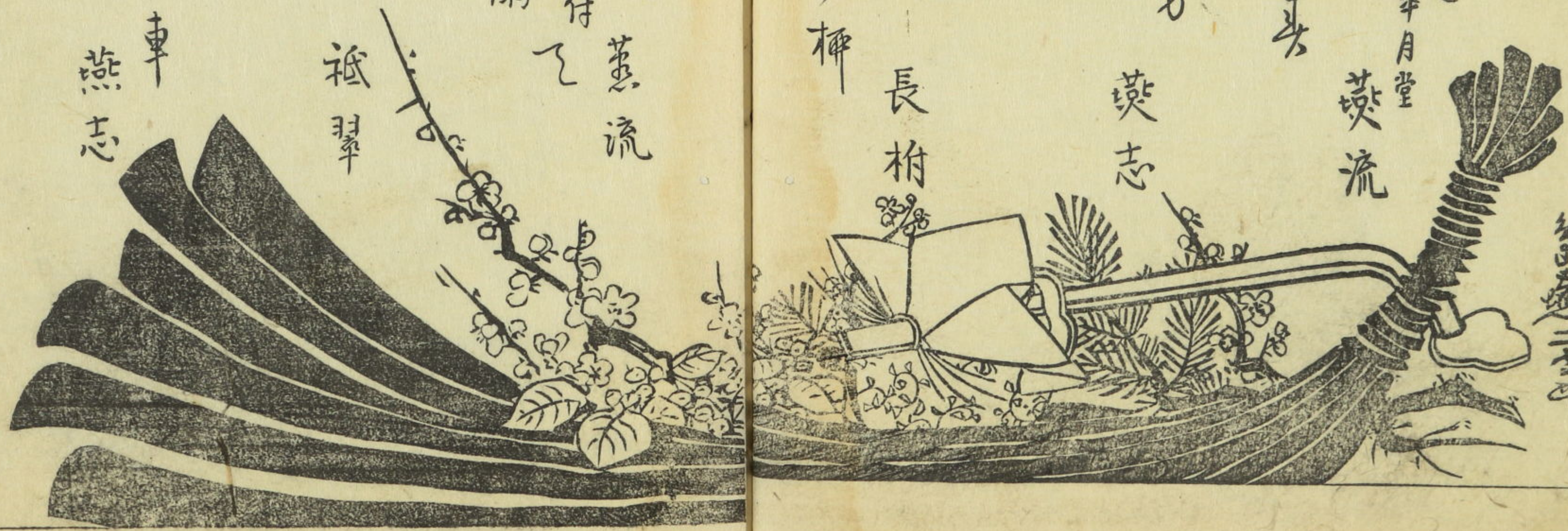
長々庭より

燕志

斗雲

乃也七戸塚あり

葵流



忠連二七回



東林画

礫川連

歳旦

未廣く作きおしり玉乃矣	茨玉
門くも松やま〜千代の春	茨冲
山越〜んゆ〜川と新地	稻里
友指の千代と後〜人松乃矣	祇鏡
あ〜玉也磨きおしり玉乃矣	湖幽
一し色の真〜〜免〜〜	貝淡
幸や君と〜方	泉波

蕙門〜一子ととけ
あ〜〜〜た名堂もも
初春のう〜あ〜あ〜あ

来雀改

元日ハ上ノ戸も似合 雜考ノ柳 東翠

松ノ母 存も新とそり七郭ノ門 東松

松牛改

度乃尾と端〜目おど 玉の頭 礫水

冷如固

春真

梅咲や舟のゆりこハ水乃る 祇鏡

自度菴

く〜ひも如竹ハ古江 柳の家 稻里

谷と〜ふホ屋あり〜や白ひも 東翠

梅交〜雪も 多葉如 常ノ柳 湖幽

掌や〜るばり竹のゐかゞん 燕冲

津原の春れと ころ 柳 うら 礫氷

舟交〜思水ハ 松ノり 後自 東松

日の掃乃丈と〜り〜 柳が 其淡

新川の氷もみどりの柳が 葵玉

とるまゝすゞしと描る柳 孟軒亭 泉波

歳暮

老る代め入あはし 佳旭堂 葵冲

との紫に皆あひあり 衣配 祇鏡

老身乃福如餅のむらさ 東松

茶の香は待ほる 言の紫とさか 葵玉

市も貫花や海もかき海老 甘淡

山くも明白くまるや とりの市 東翠

身の尾上簾や弓方の小杉原 湖幽

一身とあふるる法や さし 泉波

虎の尾と端く さし 礫水

鶏く さし 光り さし 水や鬼甲 さし 稲里

沢深庵



明の戸や

千里も日

精乃多

楓志

燕月堂

海山多々

後ふと厨斗

燕志



松文画

註

歳旦

世不

橙ハ喜ク来ハハヨウノリ

琳角

金銀の世作もあまよふ身くはぬ

三ツリリを初曙乃山うげ

桃李

年の熊と越るいあー萬履乃

明乃戸や峯もかたよの初夜夜

安志

多れ母一此梅の笑ひやの香

夢も戸さぬあ代やとあ乃来

蘭香改
莫飛

招る中や戸さぬ身の園

註

限り多に千代と流小や松野り。 魚藤改 葵波

古身と多中紀越人 陳お乃酒、

芽おしゝる 柳や舟の 作り初 里町改 葵什

さな終 息の 苦もあし 身の 苦、

ふりてふ 新しし 海草や 初まら 虎魚改 葵魚

常もともよ 喜ま川 家お梅、

昔千代もかゝぬ 妻や ちその 酒 扇月改 葵圭

兩代の 唐何あも ち川よ 身と ぬ、

拍多中 七輪 柳の 遠い 初 松連寄 桃味

一と包の ぬく 拂お すと 油、

と ぬく ちや 産も ち川 小 杉 糸 女 葵社

依 保 難 乃 ぬ 白 粉 や 師 ち 梅、

あ 水 や 皆 く ち 初 る 千 代 の 春 難世改 葵 籬

窮 ち ち や ち ぬ あり ち の 園、

君 忍 の 度 大 ち の 酒

き ち ち ち ち

作 が ば や 昔 ち ち ち ち 日 の 意 花日茶 里 盃

ち 川 ち ち 水 平 ち ち ち ち ち ち、

万葉や

松の門り

落乃き

東招園

貞鳳

あや人の

笑いゆ時津風

燕壽亭

萬亀



東林堂



歳旦

櫻田連

市中子股とくふりし陰朝の軍師ハ
無も子多とほく多朝乃拙子ハ

相生のたらしとわ	初日産	柳車
日のたし	初鳥	李等
多はく	玉乃	春路
ゆい	千町	千町
正妻のふみ	風吹	一得
え朝や		

初日のあ身乃	岩戸と	古川
と水と	初雛の	行狹
お揃	乃	呂風

春真

あうりハ	松の	瞳目	盤中
多押や	終あ	仁五門	客氣
堂や	一	一好	一好
世乃	中	の	蘆洲
日の	柳	由	初葵

微笑改

辛卯 菜旦
清酒
大小 吟

さへゆく
むらゆ

安婦みや
飛了始

喜葉堂志丸

深川親和書

歳旦

満
り
す
る

屠蘇や

喜の

千英舎

亦笑顔

葵怒



十九



金銀の

標好

岩あり

爰よ

とそ

滝

久莫

春真

道々い

付るや

全

歳暮

家代に實き

一乃市

全



34

粒の同と

津乃浪や

千代の春

嶽巖

鳥外

里

歳旦



豊永



松竹

一門好え

初日か

久英

琴河



平

来真

川廻りや

全

梅見の百ちり

身志

梅見の百ちり

全

見せり身志

歳旦春真

程とて一炷きや 春能く 三和

さし礼のきもさす 言解が

花江の警堂と湯陽小松あり
まみとてさし言解

あけの戸も小松あり富士見坂 蕨水

東漁

歳旦軸

勤きまは代の

要なり 大うざり

涼風舎

州志

春興

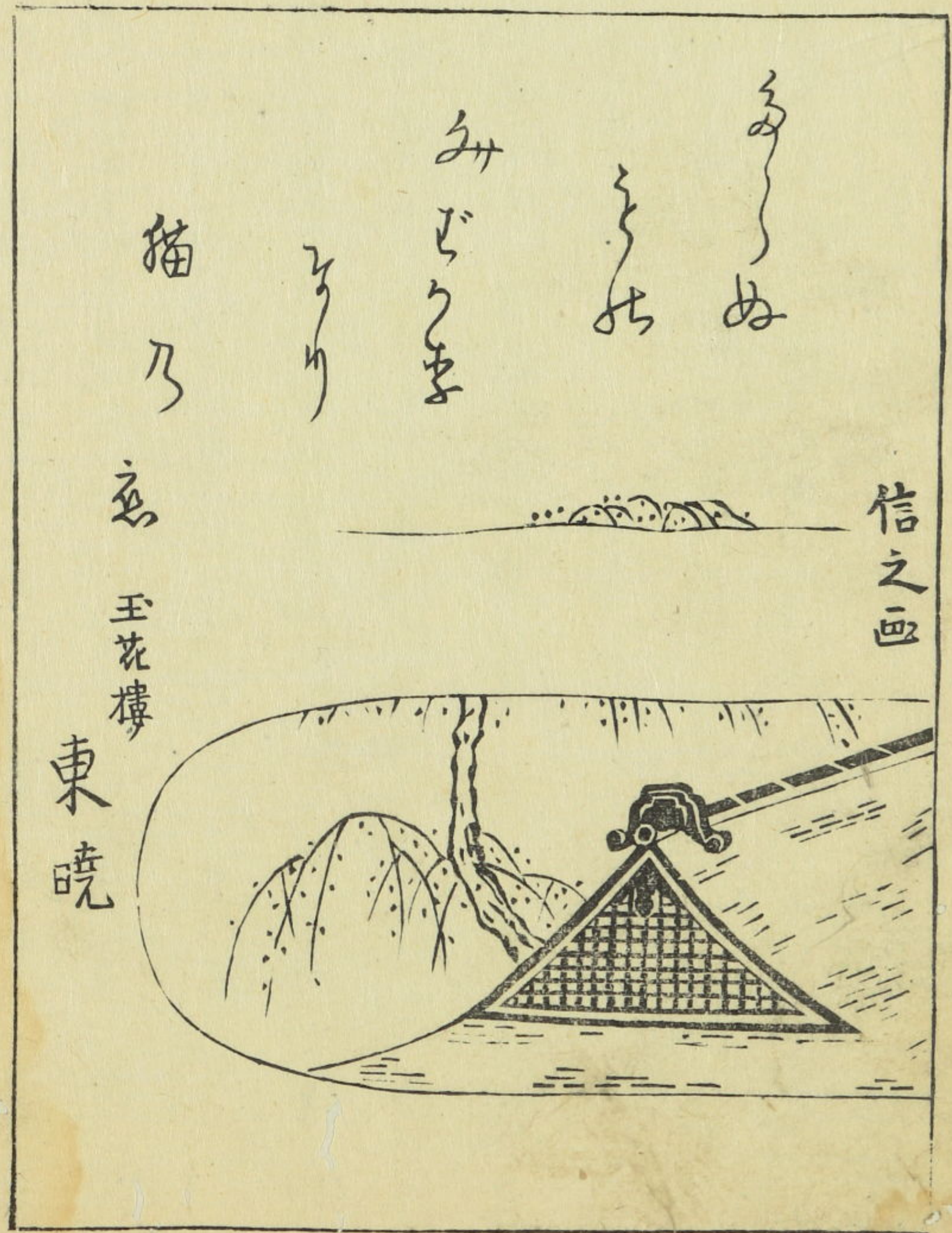
雪解やさきくも何き度一毎
 春之の光さきくも何き度一毎
 言さくもさきくも何き度一毎
 多退や廿乃頃のはよかき度一毎
 老亦くもさきくも何き度一毎
 ほくも子や廿の笑ふ庭乃山
 く記さくもさきくも何き度一毎
 別けくもさきくも何き度一毎

冠十
 吟國
 寛里
 積翠
 枯井
 清風
 湖曉
 梅賀

落馬を自在よ春の日向が
 萬里
 梅ありを風のおくくも何き度一毎
 蘭漿

あゝ茶を煮て母の管絃
 おらら月
 素徳
 草耕
 葵長
 社

人よりた利もさきくも何き度一毎
 遅斗
 石燕
 子興
 牛の帯（さきくも何き度一毎）
 子興



若葉ともむくよほくし初子皆
 素御
 雪の山に白く梅の影
 東溪
 月影の山に影し藤月
 東羽
 花の影を娘の影に柳が
 蕨門
 まる雪の一角にありてうま
 東羽
 糸の糸を合する柳の南
 錦志
 雪の千を花や
 其水
 一二痛唇見せり柳の花影
 松吟
 若草や煙の半乃ぬるをど
 羊齒
 伸る日と影よ見せしは柳が
 燕水

其の煙や摸よ刀よさいつま
 東漁
 山より帆しとくは花の影
 波酬
 若草より日の影を花の影
 葵斜
 捨舟よけはくく雪解せ
 鼠十
 山川も平地も見せしは花影
 湖水
 白臭や魚父いあらびで掛り舟
 仙志
 月花の影を花乃宮所
 潮舟
 花の影を花乃宮所
 利恭
 曲らる枝よはもめ柳が
 沾帷
 言上よ又紫と寒る
 葵二

醉月城

花紅子

早蕨の

自筆 懐や

小松川



久英

兩節春無

新玉の境や 門へ 松乃歌 忠 東和

餅巻り 障りや 彦あぬの雪あけ

と身ハ江都ト其ト足信白

厚房もおる 一 丸より 初日は 長川

旅中吟

花と見よ 登る 旅路や と の坂

お毒や 蔭入 おき 足 新派 東塘

歳暮

年の流楽や うろの 波靜 松月菴 不局

針芥許

燦輝乃 五々 一 一 扶の 忠 不荃





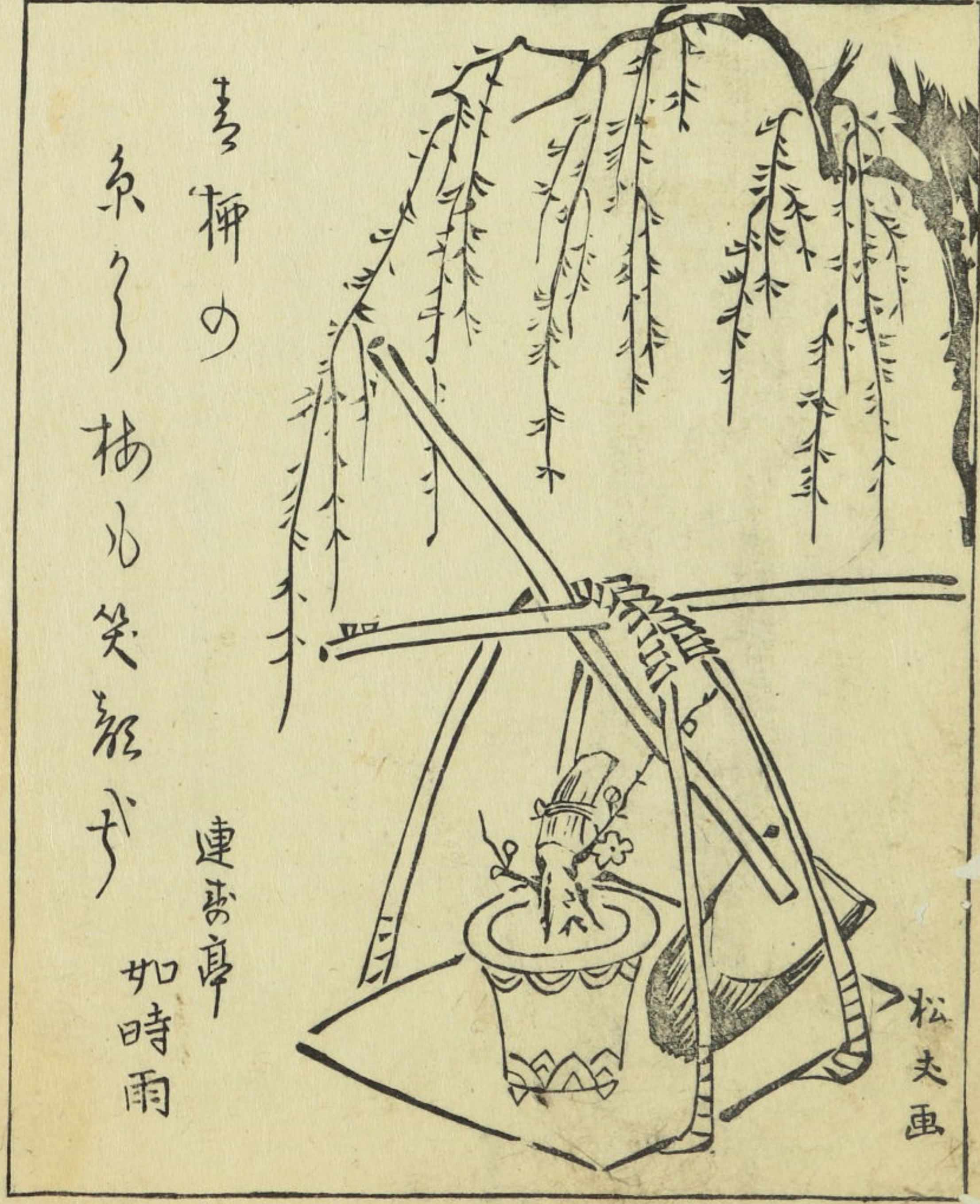
見上りの梢ハ追き

柳火

梅弄亭

龍院

子興画



春柳の

糸々梅も笑顔ぞ

連雲亭

如時雨

松夫画



山里の

手碓りもよ

ハミヤ

梅花堂

連々

雪の寛はむらゝの層

全

まぶらゝ雪も跡の謎解る全



無島

誰もよ

若菜

よ

けり
よ

緑島洞

石壽

自画



自画

歳暮

年ハ母親ノ一ありまぬくりり 東暁
 けし身の日向にぬくく 落力る暮 連鳥
 ありきやとく風の和奇の波 楓志
 爽清和 昭白き 飛車乃 海みより 清楓
 名系るふまいつまどくくの園 冠十
 とくの魚みぎけく 吃かごとく 吟國
 くらとくふ身の系くゆ 柳水 寛里
 餅つきいさど 雪又か 雪見うか 蘭漿

人と道人と遊るく 師をよぶ 積翠
 参りや市もも 参るま乃参 萬里
 年とく遊三國一の 雪見うか 眺隨

歳旦志下

里ハ初くあくまぬ枝やかく松 忍 東湖
 向の言門ハ破るお 紫竹を賣
 身乃くまも 参も参る 管 抽る 浅く
 笑やけ 花 子 由 こ ち り 身 豊 敬和

歳暮

紙奠のくふ何とくくも ぼし古 常仙

歳暮

身のちかきや何うも 追き 来示
おしぼめて思ひいそぎぬ年いそぎ 季大

柳遠く春の匂香と冬度ぬ 李門
身忘れぬ日とかえりり 錦堂
守人もあつて園ある師をが 桃御

市人の夢とちとりや身の残 艸志
葉ふる夢を花思やとく酒 東塘

身のおや眠ぬ中よまの澄 志九
夢さく旅さき一筆乃岐 標好
りしとまきし仕ゆふや古麓 琴河
花さるし夢さきとく此や燈籠 豊永
夢いそぎを侍を 東巴
入船の帆乃敷 餅 連く
雪の園あけと守りり 秀川
雪ふりしとく思ひ下流が 錦志
身乃散や梅の急もハき一筆 如時雨
まはる母もとも 橋と水 東浦

花や雪かざる春をよとくーの町 素卿
 餅つきやちぬとくー姑芋地山 其水
 師をともちりドー子依の身はを 蕨周
 虎の尾乃ちきも程きもくーきぬ 連雨
 古拙此笈い魚んよッーの園 李長
 古池いや身ー 鏡る山乃園 涉酬
 年の尾乃くくまかざんや 香袋 松吟
 一言の毒乃まがーや身の肉 龍鏡
 とくちよ春のこ此費いささぐ 日鳳
 餅つきお一回もばも家六乃春 東羽

身と打ッバ春とくーへんとーの奥 蕨夫
 志川くより後茶川の身乃乃波 烈志
 ありかさや着も信りも年能蜀土 星鳥
 挨拶もを捺すくもやッーの美 富貫
 二十丸ッ厄と拂ふくー 春まらぬ 仙志
 身乃乃雪ッ春ー川ーんぬ 蕨巴
 年の尾や帳座の行も能産り 鼠十
 鶯ハ巢とー春や信んとー姑園 羊齒
 餅つきや姑もとぬいーろ常 葵川
 雪の中とと漬ささめやハ身出熊 葵二



ハ
 春の道
 戸さぬ園や

松旭堂
 東漁

五ノ



松
 千里
 乃
 廣

久英堂

松
 乃
 莫水

東旭齋

五ノ

歳旦

先英と意見
顔よりそり此醉

真身手傳揮哉
魚多少登梅

不心也
人も波年うらるまは
いそりや
源信齋
秀里

春冬

松竹中春之ちり
静乃々々

梅咲や日向
舟乃こ鰯

少浪や世由位の江結
所はし
長附

浦尾

歳暮

懐中帆を掛る時を季身の海
莫破
雪一海に多し蓬草の汀うか
莫曉
暮一登る一夜と暮乃禁也
東溪

大尾

雪のふや雪一此

甫甫菴

もも妙く 妻 棟

莫志

明和八年のときいふゆゑに

彫工

松魚

今しいら

五比呂友

花のさる

竹翁物々
桐忠義棟

とるや

左琴 竹翁物々

桐雨



天 菊月夜 琴左 左琴

